

# 千葉県屏風ヶ浦の上部更新統香取層基底にみられる複合シーケンス境界 Superimposed sequence boundary of the upper Pleistocene Katori Formation observed on marine terrace, Byoubugaura coastal cliff, central Japan

\*岡崎 浩子<sup>1</sup>、奈良 正和<sup>2</sup>、中里 裕臣<sup>3</sup>、田村 亨<sup>4</sup>、伊藤 一充<sup>4</sup>

\*Hiroko Okazaki<sup>1</sup>, Masakazu Nara<sup>2</sup>, Hiroomi Nakazato<sup>3</sup>, Toru Tamura<sup>4</sup>, Kazumi Ito<sup>4</sup>

1. 千葉県立中央博物館、2. 高知大学、3. 農研機構、4. 産総研

1. Natural History and Institute, Chiba, 2. Kochi Univ., 3. Institute for Rural Engineering, NARO, 4. AIST

千葉県東部の海食崖である屏風ヶ浦は下部の鮮新統-更新統犬吠層群と上部の更新統香取層から構成される。香取層はこれまで明瞭な時代指標がなかったが、著者らは香取層の堆積相解析と年代調査を行い、その層序と形成過程を明らかにしている（中里ほか、2016など）。香取層の基底は犬吠層群との不整合面であり、侵食面上に層厚30cm以下の貝化石片を含む亜円礫の細礫～中礫混じりの砂礫層がみられる。侵食面直下の犬吠層群の泥岩中にはカモメガイ、ニオガイなどによる穿孔がみられ、波食台堆積物である。この上位は、内陸陸棚相、河口相および下部外浜相という異なる堆積相が認められる。また、テフラ調査およびOSL年代測定の結果からは、これらはMIS 5e?, 5c, 5aの堆積物であると考えられる。したがってこの固結した犬吠層群上の不整合面は、高周期堆積シーケンスの重複するシーケンス境界であると考えられる。

## 引用文献

中里裕臣・奈良正和・岡崎浩子・水野清秀・伊藤久敏 (2016) 関東平野東部、銚子地域における On-Pm1とこれを覆う海成層. JpGU2016大会講演要旨, HQR15-P08.

キーワード：波食台、MIS 5c、MIS 5a、シーケンス境界

Keywords: marine terrace, MIS 5c, MIS 5a, sequence boundary